

笑顔と元気で かがやくまちに

大竹市長 入山 欣郎



大竹市議会議長 賀屋 幸治

明るいニュース 多い年に

明けましておめでとうございます。皆様には希望あふれる輝かしい新年を健やかに迎えることとお慶び申し上げます。また、常日頃からの市政へのご支援に対し厚くお礼を申し上げます。

長引くコロナ禍で、何度も感染の波と闘いながら、ようやく元のにぎわいを取り戻しつつあります。経済活動が動き出したことに安堵する一方で、いまだ感染状況は予断を許さず、継続した対策が必要と考えています。

さて、今年も積年の課題であった大竹駅の東西を結ぶ自由通路と橋上駅舎が完成し、利用が始まります。東西駅前広場の整備はまだ残っていますが、事業の計画から約半世紀もの年月をかけ、ようやくここまで形になりました。少しずつでも前向きに事業を進めることの大切さを感じています。

また、昨年度で終了した米軍再編交付金に代わる、新たな交付金が15年間で59億円交付される見込みとなりました。基地に対する市民の皆様の不安な思いと我慢への配慮を継続するよう国へ要望してきたことが実を結びました。大竹の発展のため、しっかりと使い道を考えたいと思います。

大変厳しい世の中の状況が続いていますが、いつの時代でも、先行きがはっきりと見えることはなかったはず。その時代を生きる人たちが、それぞれの今をしっかりと見つめ、夢を持ちながら最善を尽くしてきた結果、現在に繋がっています。

今何をすべきか、何ができるのかをしっかりと考え、皆様と共にこれからも大竹のまちが笑顔と元気でかがやくまちとなるよう全力で取り組んで参ります。引き続き、市政へのご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

今年こそ新型コロナウイルスとの闘いが終わりを迎え、明るい話題と、にぎわいにあふれる世の中となりますことを切に願いますとともに、皆様にとりまして平穏で充実した年となりますよう心よりお祈り申し上げまして新年のごあいさつといたします。

雪の三倉岳

明けましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、新年を迎え健やかにお過ごしのことと心からお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症との闘いは今後も予断を許さない状況ですが、「withコロナ」という新しい生活様式の中で乗り越えるしかありません。

また、昨年は2月のロシアによるウクライナ侵攻や7月の安倍晋三元首相の白昼銃撃被害事件など歴史的に重大な出来事が起こりました。我々は時事の証人として、これから先も国内外の安全保障問題や経済環境問題など目が離せない状況が続いていくものと思慮されます。

こうした中でも、大竹市には明るいニュースも多くあります。

まず、長年の夢であったJR大竹駅舎の橋上化と東西を結ぶ自由通路が2月に完成いたします。これにより利便性が向上し駅周辺市街地の活性化が期待されます。

また、翠橋東詰め交差点角に本格的なビジネスホテルが夏にオープンする予定で、観光やビジネスの集客増加が見込まれます。

次に、民間の美術館が晴海地区に3月に開館予定です。同時にフレンチレストランと戸建宿泊施設（ヴィラ10棟）も併設されますので、新たな大竹市の文化芸術施設として観光名所になることが期待されます。

さて、市議会では、2月上旬に3班に分かれ市内9会場で議会報告会（意見交換会）の開催を予定しております。コロナ禍で参加が厳しいかと思いますが、市民の皆様との対話の場所として絶好の機会ですので議会への要望や意見、地域課題の共通認識の確認など忌憚のない意見交換をお願いしたいと思います。

また、前回（令和元年）の市議会議員選挙で無投票になったことを重く受け留め、議員定数のあり方の議論を進め、昨年9月に次期改選（今年8月）の議員定数は「現状維持」との結論を得ております。

結びに、皆様のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

母校に寄付

故筒井和義さん（広島大学名誉教授）

11月14日、玖波小学校に300万円を寄付した故筒井和義さん（令和3年68歳で死去）への感謝の式が、妹の佐藤睦美さん、めいの佐藤瑠奈さんを招いて開かれました。筒井さんが玖波小学校で過ごした時期を懐かしく話していたことを思い、遺族が寄付を決めたそうです。

筒井さんは、大学卒業後に研究者の道歩み、脳科学研究の分野で活躍。日本や海外で多くの受賞歴があり、平成27年には文部科学大臣表彰を受けています。

式では児童代表の小林龍希くん（6年）が「玖波小から筒井教授に続く人が出たらいいと思います」とお礼の言葉を述べました。

寄付は基金とし、『筒井科学文庫』を開設。今年150冊の本と顕微鏡を購入しました。式の後にはYouTubeバーのかず先生のサイエンスショーが行われ、児童らは大喜びでした。



（上）寄付で購入した図鑑や科学関連の本が並んでいます。（下）『おもしろサイエンス』と題したパフォーマンス。空気砲の輪に児童は興奮気味。

「青少年の非行・被害防止」 「社会を明るくする運動」 作文・ポスター・標語 コンテスト表彰

問い合わせ 青少年非行防止実行委員会
（生涯学習課内） ☎28-5680

11月25日に、コンテストの表彰式が行われ、児童・生徒の皆さんに表彰状が手渡されました。

作文の部

大竹市長賞

大竹中学校3年 藤池 愛実さん

「地域交流で非行防止へ」

標語の部

大竹市教育長賞

小学校中学年の部

小方小学校4年 吉原 惇哉さん

「あいさつは未来につなぐ

ことばだよ」

小学校高学年の部

大竹小学校6年 中川 美緒さん

「その目線スマホじゃなくて

道路みて」

中学生の部

小方中学校2年 田中 葉希さん

「その話信じていいの？本当に？」

大竹地区更生保護女性会長賞

小方小学校4年 入山 稜久さん

「助け合いこまっていたら だれにでも」

大竹市防犯連合会長賞

小方小学校5年 難波 和花さん

「やっちゃんやダメ ちいきみんなでごえかけよう」

大竹地区保護司会長賞

大竹中学校2年 田中 虹空さん

「助け合い相手も私もあたたかい」

大竹警察署長賞

大竹中学校1年 三浦 理央さん

「その言葉 凶器と同じだよ」



大竹市防犯連合会長賞

大竹中学校3年 増田 悠人さん

「その薬 大丈夫？」

